

第10回 文化交流施設整備検討会【要旨】

日時	令和4年11月11日（金）午後6時30分～午後8時30分
場所	オンライン開催
出席者	<p>（委員） 卯月盛夫委員長、齋藤啓子副委員長、沢木拓也委員 羽生冬佳委員、両角達平委員、明戸真弓美委員 土橋圭子委員、松田智子委員、小林行男委員 清水啓史委員、志村博委員、富永新三郎委員 北川嘉昭委員、古瀬清美委員</p> <p>（事務局） 小林文化交流推進課長、文化交流推進課担当 松崎再開発担当部長、能見再開発担当課長 住まい街づくり課担当</p>

1 開会挨拶、委員出席確認

2 議題

(1) (仮称) 荒川区西日暮里駅前文化交流施設整備基本方針（案）の最終報告について

- (事務局) 資料1であるが、(仮称) 荒川区西日暮里駅前文化交流施設整備基本方針（案）の最終報告をまとめたものである。P. 1からP. 8については、同中間報告と大きく変更していない。P. 9からP. 11については、本検討会の経過と頂いた意見等を項目別に整理し、ポイントとなる意見について下線を引いている。P. 12からP. 13については、文化交流施設整備に求める機能を検討するため、求める機能の視点の整理、P. 14からP. 17の前半については、文化交流施設のコンセプト、P. 17の後半からP. 22については、各機能の具体的な内容と施設のゾーニングイメージを添付した。P. 23からP. 24前半については、周辺地域と連携するための取組事例とそれによる効果を記載した。P. 24後半については、文化交流施設を整備するまでに引き続き検討すべき事項について記載した。
- (委員) P. 22の商業施設、コンベンションホールとの連携に関することについてであるが、再開発という視点から考えると連携は大切と考える一方で、文化交流施設は非日常の部分も持ち合わせるため、1階～6階の日常使いの商業施設とは別物と考えても面白いのではないかと。学識経験者の考えを伺いたい。
- (委員) 再開発ビルの課題は、建物全体のコントロールや商業施設同士の協力関係が難しいことである。例えば、竣工後数年で店が入れ替わってしまうことや空き店舗が発生することでビルが寂しい雰囲気になってしまうこと、また時代のニーズが変わることにより、大きな店舗が撤退し、広い空間ができることで雑居ビルのようにになってしまうことが考えられる。
今回の再開発は、目玉空間となる文化交流施設と民間のコンベンションホールが入ることが建物全体のベースとなると考えられるため、1～6階に入る商業施設が協力し合えるための軸となるのではと考えている。再開発ビル全体をコーディネートできるようなテーマがあると、それぞれの店舗の目標や具体的な方策に役立つのではないかと。

また、駅前の再開発ビルのため、全体のコンセプトに賛同する企業が2フロ

アを一括運営するというような大きな連携も期待できると考える。

- （委員長） 商業施設もコンベンションホールも「荒川区の新しい文化」というような大きなテーマを持てると面白いと思う。もちろん違う店舗も入ると考えられるため、最終的には各施設が Win-Win となるようにということではないか。
- （委員） 前回視察した施設のように、1階から7階の管理運営を1つの会社へ任せることで、利益の確保や各階へ入店するテナントの調整などをコントロールしてもらうというのはどうか。
- （事務局） 準備組合では再開発の参加組合員を決める際に、施設のトータルコーディネートを含めて考えることを想定している。文化交流施設についても今後、具体的な管理運営方法について検討する。選択肢の一つとしてトータルコーディネートができる事業者も考えていかなければと思っている。
- （委員） 文化交流施設が他の施設との繋ぎ役となることで、例えば再開発ビル全体で運営会議のようなものを月ごとに行うことで、再開発ビル全体を盛り上げていけるような仕組み作りが大切であると考えている。
- （委員） 文化交流施設の可変性を確保するためには、文化交流施設としても運営組織をつくる必要があると考える。
- （委員） 視察を行ったことで、インスピレーションをもらえたため、施設のゾーニングイメージを想像しやすくなった。

視察した PLAY!PARK は開かれた空間へ人が来ていることや芸術系の学生が職員であったため、教育的視点として面白かったが、福祉的視点から子どもや若者支援を考えた場合、福祉的なニーズに気づける職員はいないようであった。若者支援として全国的に、ひきこもりや不登校の子のための相談スポットを開設しているが、ひきこもっている若者はそのようなところへ相談には訪れない。開かれた空間で教育や福祉色のない、文化交流施設のようなところには居場所を求めて訪れると思う。若者等の潜在している福祉的ニーズを捉えることができたり情報を提供できるような職員を配置すると、多様性・インクルーシブな施設づくりにも繋がっていくだろう。

- （委員） P. 6～7の4区における文化・交流施策等の現状と課題（4）居場所やP. 12～13の6文化交流施設整備に求める機能の検討（9）多様性・インクルーシブな施設づくりへその視点を追記してはどうか。
- （委員） 区では中学校を卒業した若者との接点が切れてしまっていることが課題であるため、まずは若者の相談窓口を作る予定である。その後の展開として、若者の居場所を作れないかと考えているため、その際は今の視点を反映し、文化交流施設のお試し施設としても役立てていきたい。
- （委員） 先ほど再開発ビル全体で区の空間が目玉となるという話があったが、地域や建物全体のコンセプトと合致するものが西日暮里にでき、基本方針の内容が実行されることで、継続した運営ができるのではないかと期待している。また、1～6階の商業施設についても1つ企業に運営を任せることで、荒川区の目玉となり、再開発ビルが活性化を生み出せるような参加組合員が選定されることを期待している。そして、文化交流施設が若者の居場所づくりの核となり、たくさんの若者が集まる施設となることを願っている。
- （委員長） 文化交流施設完成まで時間があるため、区の公共施設や民間施設で文化交流施設のお試し運営をやってみるのはどうか。

○（委員） 例えば、お試し施設で体験講座や居場所づくり、本のテーマパークゾーンの関係では、街なか図書館で意見をいただくなどし、今後行うワークショップの参加者を見出すのもよいかと考えている。

○（委員） 再開発ビルにより活性化されることは良いが、残念ながら今、商店街の力が弱まっている。商店街も盛り上がるよう一生懸命努めさせていただき思っている。

○（委員） 報告書内の記載で気になる部分がある。

P. 13の魅力ある施設の外観であるが、施設のイルミネーションがきれいということではなく、屋内で人が動いて活動しているシルエットが照明の効果などで屋外から見えることは魅力の要素となるため、記載してはどうか。

2点目P. 14の下部にある図からP. 15の繋がりが一目見たとき分りにくいため、図の吹出「読書」、「体験」、「憩い」を消した方がよいのではないか。

3点目P. 17にある施設コンセプトであるが、より理解しやすくするために改行の位置を変更してはどうか。

4点目P. 23の周辺地域との連携であるが、①街の歴史や観光にある取組事例は、来訪者だけでなく地域住民も体験してよいと考えられる。地域住民に対しても、まちの歴史や文化を知る場所を提供するという要素を加えたほうが期待される効果に繋がると考えられるため、取組事例をもう少し記載した方がよいのではないか。来訪者へ発信する前に、地域住民がまちの魅力に気づくことが大切である。

5点目P. 24の③町会等の地域団体との連携であるが、町会等の活動か何かで連携するということを想定したが、地域団体の活動は、一般的に活動場所が不足していることが多いと考えられるため、例えば、地域のお祭りの準備や町会が活動する際に、場所やサービスを提供するというのはどうか。

基本方針全体に対してであるが、眺望についての記載が薄まった気がする。眺望については、電車や富士山が眺められることも大切であるが、例えば、今までと違う視点で街全体を見下ろすことで新たな発見につながり、地域へ関心を持つことができたり、電車などだけでなく、まちの人々の活動の様子を見下ろしながらつるぐことも、無目的にこの施設へ訪れる価値となると考えられる。P. 19の居場所・交流ゾーンの具体的な例示に追記してもよいのではないか。

○（委員） P. 14の図であるが、無目的の説明がないため、後ろ向きな意味に捉えられかねない。例えば、無目的（自由）のようにした方が、意味が伝わりやすいのではないか。

また、P. 22の商業施設、コンベンションホールとの連携に関することであるが、コンベンションホールで開催される美術展やコンサートに合わせて、文化交流施設で本物の体験ができるようになってほしいと思っている。そのため、コンベンションホールは幅広く多様な催しができる施設としてほしいというような旨の記載があるとよい。また、文化交流施設全体に関することである、時間帯により照明を変化させ居心地のよい空間とする工夫であるが、施設全体のイメージが、屋内の公園であるため、外が暗くなったら照明も暗くするというように夜の公園の雰囲気も味わえる場所とするのもよいかと考えた。

P. 23であるが、②商店街・モノづくりの体験での取組事例として、文化

交流施設を拠点とし、商店街やモノづくりの体験を組み合わせたツアーを行うのはどうか。どちらかというとも来訪者向けかと思うが、荒川区の商店街は面白く、区の魅力の1つである。

- (委員長) 確かに無目的を説明することは難しい。施設が魅力的だから行ってみようという意味であるならば、それは無目的ということではないかもしれない。わかりやすい表現を考えたい。

文化交流施設でこれまで練習してきたことをコンベンションホールで発表したり、逆にコンベンションホールで本物を体験し、それを文化交流施設でやってみたりなどの使い分けができてよいのではないか。

- (委員) P. 11、P. 25の区民参画であるが、今回、学生から話を聞く機会を持てなかった。やはり、早い段階から施設へ関わりを持ち、意見を言うことで施設への興味が変わってくる。子どもたちの施設への関わりを増やしていけるよう、基本方針へその趣旨を記載したほうがよい。

西日暮里にある開成学園は、松山市で開催している俳句甲子園の強豪校である。松山市では俳句文化が地域に根付いており、まち全体で盛り上がっている。例えば、地域に根付いていることや文化的な何かを、文化交流施設で練習し、コンベンションホールで発表するというような、連携を行うというのはいかがか。また、コンベンションホールを借りるのは高額なため、区民が行う催し等はコンベンションホールを安く借りることができるというような仕組みもあると、盛り上げていきやすいのではないか。

- (委員) 荒川区では東の俳都となるべく松山市と連携して俳句に力を入れており、中高生俳句バトルを開成学園と開催している。開催場所として西日暮里の地は最適と考えている。

各委員からいただいた貴重な意見については、文化交流施設のみならず、既存の区有施設や今後、整備する予定の若者の居場所などの事業全般に通じる話であり、活用させていただきたく思っている。

- (委員) 西日暮里周辺は、北千住、上野、池袋と大商圏があるため、西日暮里に人が来てくれるためには商業的な魅力は必須である。そのためには、再開発ビル全体をマネジメントすることが必要となるため、参加組合員の実績が大切である。

再開発ビルに集まった人が商店街を通る仕掛けや商店街の特徴的な商品を紹介するなどし、再開発ビルと商店街で盛り上げていければと考えている。

- (委員) P. 24の町会等の地域団体との連携であるが、ここの記載は理解しきれない。お祭りなど大きなイベントは数町会共同で行うこともあるが、基本的に町会は町会ごとの活動である。また、町会の活動場所は、各町会の町会事務所や近隣のふれあい館を利用しているため、文化交流施設で何かをやるというのはどうなのか。

- (委員) P. 17の施設コンセプトであるが、「主体的に遊ぶ」とあるが、遊びは自由意思に基づいているものである。遊ぶという言葉自体に主体性が含まれているため「主体的に学び、遊ぶ」とするのはいかがか。

- (委員) 最近のゲームは大人が作ったフィールドの中で、遊ばされている感じを受ける。昔は落ちている缶で缶蹴りをしたり、何か作ったりと自分たちで自由なことをしていた。そういう意味で主体的を加えているのがいかがか。

- (委員) 青少年教育分野でよくある事例として、大人は遊びの時間を提供して

いると思っているが、参加した子どもは、「これが終わったら遊んでいいか」と聞いてくる。たとえ缶蹴りでも、プログラムに参加させられている子どもは、遊びではなく教育とってしまうことがある。

ユースセンターの多くは、自由にゲームができる場となっているが、ゲームがしたいだけで来ているわけではない。その空間に誰かがいて、ふと声をかけられて何かしようとなる。そのようなことが許容されることが無目的な空間であり、そこにいられる。私たちが一生懸命何かを提供し、遊んでももらいたいと思えば思うほど、子どもは、それを遊びではないと感じてしまう。

- （委員） 区民参画のワークショップに期待したい。あらゆる層で行うことではあるが、中学校を卒業すると区と若者の接点が少なくなってしまうことがあるため、中学生以上にアプローチする方策をよく考えてやった方がよいのではないか。
- （委員） 以前から私は、単に大きなふれあい館を作るのではなく、目的が無くてもいい、ただの広場でいいのではないかと考えていた。無目的や屋内の公園のような空間が文化交流施設のキーワードともなっており、大変いい形でまとまってきたと捉えている。

P. 17のコンセプトであるが、これまでの経緯から言い表したいことは分かるが、検討会で出てきた様々なキーワードをつないでいるような感覚を受ける。初見であると、コンセプトが言い表していることが何となく分かりにくい気がしている。

いずれにしても、コンセプトを含め基本方針が完成し、文化交流施設をつくるためのたたき台ができた。今後、時間が経過していくことでよい意味で、内容が変わっていくこともあるだろう。施設が完成したときに、この検討会で議論した内容が反映され、多くの方に利用されるような施設となると、この会議としてもよかったのではないかと思う。

- （委員長） コンセプトにある言葉は、検討会で出た言葉を寄せ集めた感じもなくはないが、それぞれの言葉に意味があるため、例えば、分かりやすくするためにコンセプトに注釈をつけるという方法もあるのかもしれない。
- （委員） 施設が完成するまで7年ほどあるが、充実した期間としなければならない。施設づくりのためのプログラムを今後、どのように作っていくかが重要となるのではないか。7年というと、小学校3年生が高校2年生となる年数である。やはり、早めに若い世代に関わってもらえる機会があるとよい。
- （委員） 区政に関心を持っている人やワークショップへ参加する人は比較的施設への関心が高いと思うが、ふだん区の施設を利用していない人でも、ふらっと足を運べるようにし、施設づくりに巻き込んでいくことが今後の大きな課題と考える。
- （委員長） 魅力的なプログラムとわくわくする空間が相まってあるといいだろう。

先日の皆既月食では、空を見上げたり天体に興味が湧いた人もいたかと思う。例えば、文化交流施設の屋外スペース等で天体講座のような空を見る体験を行うと、施設へ行ってみようと思う人もいるだろう。文化交流施設が完成するまで時間があるため、基本方針へ小さなキーワードも書いておくと、後日、忘れてはいけない視点に気づくこともあるだろう。そのような基本方針となるよう、今回の検討会の意見も含め事務局と詰めていきたい。

また、子ども基本法が来年4月から施行され、子ども関係の政策が推進されていくことになるだろう。そのため、基本方針には、子どもや若者のことについてあらかじめ記載しておく必要がある。

- （事務局） 基本方針については、今回の意見を加筆したのち、区議会への報告を予定している。

3 事務局からの連絡事項